

ユニット・リンク ユニット・リンク保険(有期型)

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

四半期運用レポート

2009年10月～2009年12月

【利用する投資信託の委託会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社



アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュウ株式、債券、フレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社



ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社は、世界有数の金融機関である米国ステート・ストリート銀行グループに属します。1998年10月1日に業務を開始、投資信託・投資顧問業務を幅広く展開しています。また、母体であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSgA)は、世界有数の資産運用額を誇る米国ステート・ストリート銀行の資産運用部門です。ステート・ストリート銀行は、1792年に米国ボストンに設立された歴史と伝統ある金融機関です。

アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社



アクサ・ローゼンバーグは、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

- ・アクサ生命保険株式会社の「ユニット・リンク保険(有期型)」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「ユニット・リンク保険(有期型)」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

ユニット・リンク保険（有期型） 特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2009年10月～2009年12月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、期末にかけて反発しました。TOPIX(東証株価指数)は9月末比▲0.25%下落の907.59ポイントで終了しました。
10月下旬に入り、円高懸念や新政権の政策に対する不透明感などから軟調な展開となり、11月下旬には、ドバイショック(ドバイ政府系企業の資金繰り懸念)から、米ドル/円相場が急速に円高が進行したことを受けて、大きく下落しました。12月に入り、円高が一服したことや日銀の追加金融緩和策などを好感し上昇に転じました。その後も、銀行株の増資懸念後退、欧米株の上昇などを背景に概ね堅調に推移し、9月末の水準を回復しました。
業種別(東証33業種)では、業績回復期待から「精密機器」(9月末比+11.99%)が最も上昇した一方、日本航空の経営不安を受けて「空運業」(同▲18.51%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇し、NYダウは9月末比+7.37%上昇の10,428.05ポイントで終了しました。10月中旬にかけて、米主要企業の7～9月期好決算発表などを受けて上昇しました。11月に入り、好調な企業業績やG20(20カ国・地域)財務相・中央銀行総裁会議で景気刺激策継続が確認されたことなどをを受けて、大きく上昇しました。11月下旬以降は、ドバイの債務問題などから軟調に推移する局面もありましたが、好調な米経済指標などを背景に、揉み合いながらも年初来高値を更新する展開となりました。
欧州株式市場も、主要国の株式指数は米国とほぼ同様の動きとなり、軒並み年初来高値を更新しました。市場別騰落率は、英FT100は9月末比+5.43%上昇、仏CAC40は同+3.71%上昇、独DAXは同+4.97%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、新発10年国債利回りは1.285%となりました(9月末は1.295%)。
11月中旬にかけて、財政問題を背景とした国債増発による需給悪化懸念などから債券が売られる展開となり、1.4%台半ばまで上昇しました。しかし、その後は国債入札を無難にこなしたことやドバイショックの影響で円高、株安となったことなどをを受けて債券が買い戻される展開となり、1.1%台まで低下しました。12月は、概ね1.2%台で揉み合いの推移となりました。
日銀は、政策金利を据え置き、年0.1%を維持しました。
無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

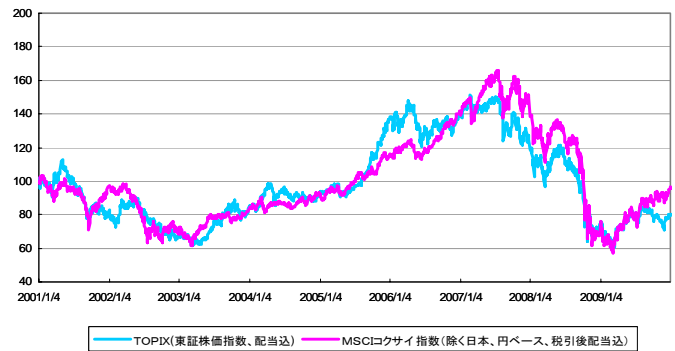
米国債券市場は、11月中旬にかけて、強弱交錯する米経済指標などを背景に、揉み合う展開となりました。その後、ドバイショックを受けて、一時的に債券が買われましたが、12月に入り、好調な米経済指標やインフレが加速するとの見方などから、大きく債券が売られる展開となりました。米10年国債利回りは、12月末3.837%となりました(9月末は3.305%)。
欧州債券市場は、米市場に連動して推移し、11月中旬にかけて、狭い範囲での動きとなりました。ドバイショックなどを受けて、12月中旬まで債券が買われる展開となりましたが、その後はユーロ圏の景気見通しの改善などを背景に、債券が売られました。また、ギリシャ国債の格下げなどを背景に、周辺国の債券は大きく売られました。独10年国債利回りは、12月末3.387%となりました(9月末は3.220%)。
FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0～0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年1.0%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、11月下旬に入り、ドバイショックによる避難先通貨として円を買う動きが強まり、1ドル=86円台まで円高が進行しました。その後は、好調な米経済指標に加え、日銀の追加金融緩和策が発表され金利差拡大観測などが台頭したことから、円安傾向となりました。円は対ドルで9月末比1円89銭(▲2.10%)円安ドル高の1ドル=92円10銭となりました。
ユーロ/円相場は、10月下旬にかけて、投資家が金利差などを意識したことなどから、1ユーロ=138円台まで円安が進行しました。その後は、ドバイショックに加え、欧州の経済指標がまちまちだったことなどから、一時的に1ユーロ=128円台まで円高が進行しました。円は対ユーロで9月末比0円28銭(▲0.21%)円安ユーロ高の1ユーロ=132円00銭となりました。

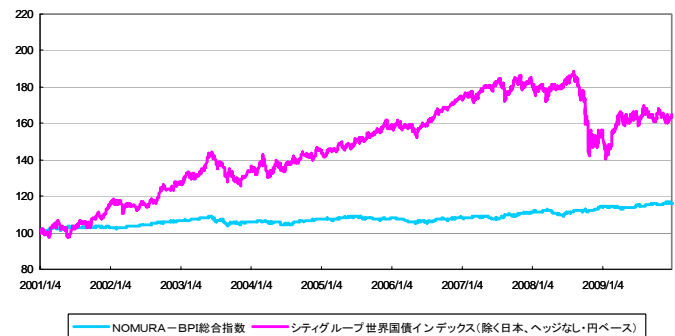
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

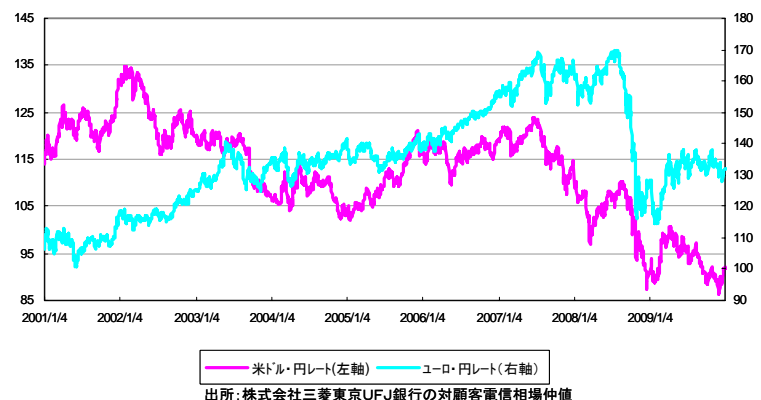


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電債相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先： カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型）

特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託		
			投資信託名	運用方針	委託会社
安定成長 バランス型	日本 株式 20%	主として国内外の株式及び債券を 主要投資対象とする投資信託に投 資することにより、中長期的に安定 した投資成果を目標として運用を行 います。実質組入外貨建資産の為 替変動リスクに対するヘッジは原則 として行いません。 基本資産配分は、日本株式20%、 外国株式20%、日本債券30%、外 国債券30%とし、一定の規律に従 いリバランス*1を行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパ ン・スタイル・ブレンド・ファンドー2	※ 特別勘定【日本株式プラス型】の運用方針をご参照ください。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
	外国 株式 20%		適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・海外株式 スタイル・ブレンド・ファンドー1	※ 特別勘定【外国株式プラス型】の運用方針をご参照ください。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
	日本 債券 30%		ステート・ストリート日本債券 インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本の 公社債等に投資を行い、ベンチマーク(NOMURA-BPI 総合指 数*2)に連動した投資成果をめざします。	ステート・ストリート・ グローバル・アドバ イザーズ株式会社
	外国 債券 30%		ステート・ストリート外国債券 インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除 く世界主要国の国債、政府機関債等に投資を行い、ベンチ マーク(シティグループ世界国債インデックス*3(除く日本、 ヘッジなし・円ベース))に連動した投資成果をめざします。外 貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	ステート・ストリート・ グローバル・アドバ イザーズ株式会社
積極運用 バランス型	日本 株式 25%	主として国内外の株式及び債券を 主要投資対象とする投資信託に投 資することにより、中長期的に安定 した投資成果を目標として運用を行 います。実質組入外貨建資産の為 替変動リスクに対するヘッジは原則 として行いません。 基本資産配分は、日本株式25%、 外国株式35%、日本債券20%、外 国債券20%とし、一定の規律に従 いリバランス*1を行います。	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパ ン・スタイル・ブレンド・ファンドー2	※ 特別勘定【日本株式プラス型】の運用方針をご参照ください。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
	外国 株式 35%		適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・海外株式 スタイル・ブレンド・ファンドー1	※ 特別勘定【外国株式プラス型】の運用方針をご参照ください。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
	日本 債券 20%		ステート・ストリート日本債券 インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本の 公社債等に投資を行い、ベンチマーク(NOMURA-BPI 総合指 数*2)に連動した投資成果をめざします。	ステート・ストリート・ グローバル・アドバ イザーズ株式会社
	外国 債券 20%		ステート・ストリート外国債券 インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除 く世界主要国の国債、政府機関債等に投資を行い、ベンチ マーク(シティグループ世界国債インデックス*3(除く日本、 ヘッジなし・円ベース))に連動した投資成果をめざします。外 貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	ステート・ストリート・ グローバル・アドバ イザーズ株式会社

特別勘定名	基本資産 配分比率	利用する投資信託		
		投資信託名	運用方針	委託会社
日本株式 プラス型	日本 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ ジャパン・スタイル・ブレンド・ ファンドー2	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象 に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック(割安株)及びグ ローストック(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス*1を行 います。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
外国株式 プラス型	外国 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ 海外株式スタイル・ブレンド・ ファンドー1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本を除く世界主要国 の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュース トック(割安株)及びグローストック(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従い リバランス*1を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
世界債券 プラス型	世界 債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・ボンド・ファンドー3	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に 分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に積 極的な運用を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バー ンスタイン株式会社
金融 市場型	短期 金融 資産 100%	アクサ ローゼンバーグ・ 日本円マネー・プール・ファンド(B) <適格機関投資家私募>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に 投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ・ローゼン バーグ証券投資 顧問株式会社

- ※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、法令等の改正または効率的な資産運用が困難になる等の理由により、変更されることがあります。
 なお、委託会社等の運用協力会社については、運用成績の悪化等、当社がお客さまの資産運用にふさわしくないと判断した場合、変更させていただくことがあります。
 ※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、10ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型）

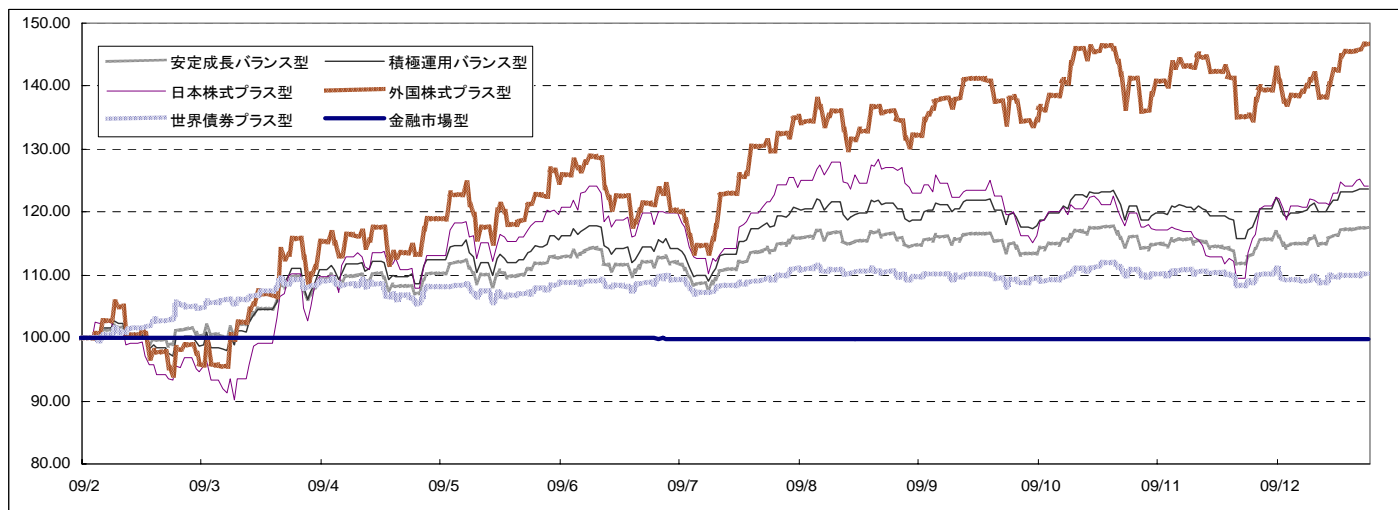
特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2009年12月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



安定成長バランス型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	117.47	過去1ヵ月	4.09
2009年11月末	112.85	過去3ヵ月	2.21
2009年10月末	115.96	過去6ヵ月	4.21
2009年9月末	114.92	過去1年	—
2009年8月末	115.76	過去3年	—
2009年7月末	114.99	設定来	17.47

積極運用バランス型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	123.64	過去1ヵ月	5.62
2009年11月末	117.06	過去3ヵ月	3.13
2009年10月末	121.04	過去6ヵ月	7.09
2009年9月末	119.90	過去1年	—
2009年8月末	120.60	過去3年	—
2009年7月末	119.27	設定来	23.65

日本株式プラス型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	124.21	過去1ヵ月	9.45
2009年11月末	113.48	過去3ヵ月	3.41
2009年10月末	119.82	過去6ヵ月	3.52
2009年9月末	120.10	過去1年	—
2009年8月末	126.51	過去3年	—
2009年7月末	124.37	設定来	24.21

外国株式プラス型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	146.69	過去1ヵ月	8.33
2009年11月末	135.41	過去3ヵ月	6.01
2009年10月末	141.22	過去6ヵ月	18.54
2009年9月末	138.38	過去1年	—
2009年8月末	134.97	過去3年	—
2009年7月末	132.33	設定来	46.69

世界債券プラス型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	110.07	過去1ヵ月	0.95
2009年11月末	109.04	過去3ヵ月	0.68
2009年10月末	110.94	過去6ヵ月	0.37
2009年9月末	109.33	過去1年	—
2009年8月末	109.74	過去3年	—
2009年7月末	109.94	設定来	10.07

金融市場型			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年12月末	99.75	過去1ヵ月	▲ 0.02
2009年11月末	99.77	過去3ヵ月	▲ 0.08
2009年10月末	99.80	過去6ヵ月	▲ 0.17
2009年9月末	99.83	過去1年	—
2009年8月末	99.85	過去3年	—
2009年7月末	99.87	設定来	▲ 0.25

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定の設定日(2009年2月1日)の前日を100.00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	安定成長バランス型		積極運用バランス型		日本株式プラス型	
	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)
現金金・コールローン	1,189	0.9	1,050	1.0	288	0.6
その他有価証券	136,713	99.1	108,249	99.0	46,462	99.4
合計	137,902	100.0	109,299	100.0	46,751	100.0

項目	外国株式プラス型		世界債券プラス型		金融市場型	
	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)	金額(千円)	比率 (%)
現金金・コールローン	359	1.0	13,287	40.2	4,717	14.9
その他有価証券	36,405	99.0	19,788	59.8	26,851	85.1
合計	36,765	100.0	33,076	100.0	31,568	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型） 特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定 安定成長バランス型 [2009年12月 末日現在]

■特別勘定の運用方針

【運用者】 アクサ生命保険株式会社

【運用方針】

主として国内外の株式及び債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。基本資産配分は、日本株式20%、外国株式20%、日本債券30%、外国債券30%とし、一定の規律に従いリバランス¹を行います。

※ 利用する投資信託の情報につきましては、以下をご参照ください。

■特別勘定の資産構成

	基本資産配分	特別勘定
日本株式	20.00%	20.33%
外国株式	20.00%	19.99%
日本債券	30.00%	30.70%
外国債券	30.00%	28.12%
現金・コールローン	—	0.86%
合計	100.00%	100.00%

※ 上記比率は、特別勘定資産残高に対する比率となります。

資産クラス	利用する投資信託		参照ページ
	投資信託名	運用方針	
日本株式	適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー2	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹ を行います。	7ページ
外国株式	適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・海外株式スタイル・ブレンド・ファンドー1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本を除く世界主要国の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹ を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	8ページ
日本債券	ステート・ストリート日本債券インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本の公社債等に投資を行い、ベンチマーク(NOMURA-BPI 総合指数 ²)に連動した投資成果をめざします。	6ページ (上段)
外国債券	ステート・ストリート外国債券インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除く世界主要国の国債、政府機関債等に投資を行い、ベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス ³ (除く日本、ヘッジなし・円ベース))に連動した投資成果をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	6ページ (下段)

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のユニット騰落率は、前ページに記載された当該商品ユニットプライスの過去3ヵ月騰落率をご参照ください。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、上記運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

特別勘定 積極運用バランス型 [2009年12月 末日現在]

■特別勘定の運用方針

【運用者】 アクサ生命保険株式会社

【運用方針】

主として国内外の株式及び債券を主要投資対象とする投資信託に投資することにより、中長期的に安定した投資成果を目標として運用を行います。実質組入外貨建資産の為替変動リスクに対するヘッジは原則として行いません。基本資産配分は、日本株式25%、外国株式35%、日本債券20%、外国債券20%とし、一定の規律に従いリバランス¹を行います。

※ 利用する投資信託の情報につきましては、以下をご参照ください。

■特別勘定の資産構成

	基本資産配分	特別勘定
日本株式	25.00%	25.67%
外国株式	35.00%	34.31%
日本債券	20.00%	20.68%
外国債券	20.00%	18.38%
現金・コールローン	—	0.96%
合計	100.00%	100.00%

※ 上記比率は、特別勘定資産残高に対する比率となります。

資産クラス	利用する投資信託		参照ページ
	投資信託名	運用方針	
日本株式	適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー2	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹ を行います。	7ページ
外国株式	適格機関投資家私募 アライアンス・パースタイン・海外株式スタイル・ブレンド・ファンドー1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本を除く世界主要国の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹ を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	8ページ
日本債券	ステート・ストリート日本債券インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本の公社債等に投資を行い、ベンチマーク(NOMURA-BPI 総合指数 ²)に連動した投資成果をめざします。	6ページ (上段)
外国債券	ステート・ストリート外国債券インデックス・ファンドVA2 <適格機関投資家限定>	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除く世界主要国の国債、政府機関債等に投資を行い、ベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス ³ (除く日本、ヘッジなし・円ベース))に連動した投資成果をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	6ページ (下段)

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のユニット騰落率は、前ページに記載された当該商品ユニットプライスの過去3ヵ月騰落率をご参照ください。資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。今後も引き続き、上記運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、10ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

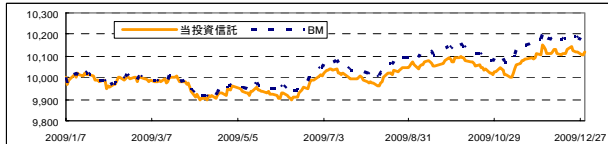
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型） 特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・ここでは、「特別勘定 安定成長バランス型」「特別勘定 積極運用バランス型」で利用している投資信託の情報を記載しております。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

《参考情報》ステート・ストリート日本債券インデックス・ファンドVA2<適格機関投資家限定> [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2009年1月8日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.07%	0.42%	1.08%	-	-	1.15%
BM	0.12%	0.57%	1.46%	-	-	1.86%
差	▲0.06%	▲0.15%	▲0.38%	-	-	▲0.71%

- ※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年1月8日)の前日を起点として計算しています。
- ※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
- ※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	クーポン	償還日	マザーファンド	BM
1	第232回利付国債	1.200%	2011年6月20日	1.79%	0.28%
2	第259回利付国債	1.500%	2014年3月20日	1.54%	0.64%
3	第65回利付国債	1.400%	2012年6月20日	1.27%	0.36%
4	第229回利付国債	1.400%	2011年3月21日	1.21%	0.54%
5	第225回利付国債	1.900%	2010年12月20日	1.14%	0.00%
6	第237回利付国債	1.500%	2012年3月20日	1.06%	0.58%
7	第75回利付国債	1.100%	2013年9月20日	1.06%	0.32%
8	第240回利付国債	1.300%	2012年6月20日	1.06%	0.59%
9	第234回利付国債	1.400%	2011年9月20日	0.96%	0.84%
10	第286回利付国債	1.800%	2017年6月20日	0.96%	0.66%
合計				12.06%	4.81%
組入銘柄数				1093銘柄	

※ 「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。

■当投資信託について

【投資信託名】 ステート・ストリート日本債券インデックス・ファンドVA2<適格機関投資家限定>
【委託会社】 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本の公社債等に投資を行い、ベンチマーク(NOMURA-BPI 総合指数²)に連動した投資成果をめざします。

※ 当投資信託は、主としてステート・ストリート日本債券インデックス・マザーファンド受益証券に投資します。

○ 債券種別資産構成比率

	マザーファンド	BM	差
国債	79.14%	74.11%	5.04%
地方債	6.27%	6.89%	▲0.61%
政府保証債	5.47%	5.27%	0.20%
金融債	1.94%	1.92%	0.02%
事業債	8.76%	9.72%	▲0.96%
円建外債	0.06%	0.78%	▲0.72%
MBS債	0.00%	1.31%	▲1.31%
コール・その他	▲1.65%	0.00%	▲1.65%
合計	100.00%	100.00%	0.00%

※ 資産担保証券(ABS)は事業債に含まれていません。

○ ポートフォリオの状況

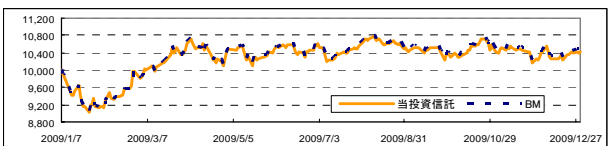
	マザーファンド	BM	差
平均複利利回り	0.81%	0.84%	▲0.03%
平均クーポン	1.54%	1.57%	▲0.03%
平均残存期間	7.31	7.25	0.06
修正デュレーション	6.43	6.39	0.04

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

《参考情報》ステート・ストリート外国債券インデックス・ファンドVA2<適格機関投資家限定> [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2009年1月8日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.80%	0.49%	▲1.43%	-	-	4.28%
BM	1.95%	0.72%	▲1.03%	-	-	4.97%
差	▲0.16%	▲0.23%	▲0.39%	-	-	▲0.69%

- ※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年1月8日)の前日を起点として計算しています。
- ※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
- ※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	通貨	クーポン	償還日	マザーファンド	BM
1	アメリカ国債	米ドル	3.625%	2019年8月15日	0.80%	0.59%
2	アメリカ国債	米ドル	0.875%	2011年4月30日	0.73%	0.35%
3	アメリカ国債	米ドル	4.875%	2012年6月30日	0.72%	0.11%
4	アメリカ国債	米ドル	1.000%	2011年8月31日	0.71%	0.40%
5	ドイツ国債	ユーロ	4.250%	2014年1月4日	0.68%	0.36%
6	アメリカ国債	米ドル	1.250%	2010年11月30日	0.64%	0.00%
7	アメリカ国債	米ドル	1.375%	2012年3月15日	0.60%	0.23%
8	フランス国債	ユーロ	3.750%	2012年1月12日	0.56%	0.27%
9	アメリカ国債	米ドル	2.750%	2019年2月15日	0.56%	0.49%
10	アメリカ国債	米ドル	4.625%	2016年11月15日	0.54%	0.20%
合計					6.55%	3.00%
組入銘柄数					431銘柄	

※ 「クーポン」とは、債券の額面に対して毎年受け取れる利息の割合のことで表面利率を表します。

※ ベンチマーク(BM)の比率は2009年12月29日時点の時価をもとに月末の対顧客電信相場時価で円換算したものです。

■当投資信託について

【投資信託名】 ステート・ストリート外国債券インデックス・ファンドVA2<適格機関投資家限定>
【委託会社】 ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に日本を除く世界主要国の国債、政府機関債等に投資を行い、ベンチマーク(シティグループ世界国債インデックス³(除く日本、ヘッジなし・円ベース))に連動した投資成果をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

※ 当投資信託は、主としてステート・ストリート外国債券インデックス・マザー・ファンド受益証券に投資します。

○ 組入上位10カ国

順位	国名	マザーファンド	BM
1	アメリカ	33.14%	33.13%
2	イタリア	11.84%	11.91%
3	ドイツ	11.13%	11.20%
4	フランス	10.33%	10.38%
5	イギリス	7.42%	7.45%
6	スペイン	4.79%	4.82%
7	ベルギー	3.08%	3.10%
8	カナダ	2.82%	2.79%
9	オランダ	2.72%	2.74%
10	ギリシャ	2.58%	2.61%
合計		89.85%	90.13%

○ ポートフォリオの状況

	マザーファンド	BM	差
平均複利利回り	2.82%	2.81%	0.01%
平均クーポン	4.28%	4.01%	0.26%
平均残存期間	8.14	8.11	0.03
修正デュレーション	5.86	5.85	0.00

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

※ 上記の属性は2009年12月29日時点のものです。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。 ・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「1～7」の用語説明は、10ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

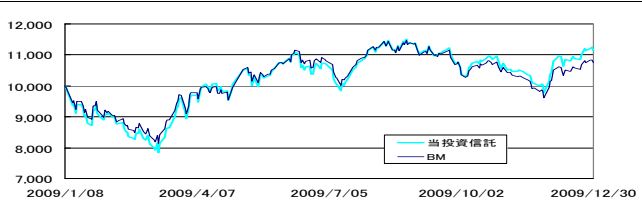
ユニット・リンク保険（有期型）

特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 日本株式プラス型 [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2009年1月8日)を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	9.87%	3.43%	3.84%	-	-	11.46%
BM	8.02%	▲0.27%	▲1.67%	-	-	7.41%
差	1.85%	3.71%	5.51%	-	-	4.05%

■当投資信託の詳細情報

○資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュー株Mファンド*	50.00%	50.11%
グロース株Mファンド**	50.00%	50.15%
短期金融資産等	0.00%	-0.26%
合計	100.00%	100.00%

○業種別構成比率

業種	投資信託
1 電気機器	16.00%
2 輸送用機器	12.39%
3 卸売業	8.26%
4 化学	7.76%
5 銀行業	5.58%
6 機械	5.51%
7 情報・通信業	5.39%
8 小売業	3.82%
9 その他の業種	34.01%
10 現金等	1.27%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	業種	投資信託
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.30%
2 三菱商事	卸売業	3.66%
3 キヤノン	電気機器	3.57%
4 本田技研工業	輸送用機器	3.45%
5 日本電信電話	情報・通信業	3.42%
6 三井物産	卸売業	3.13%
7 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.95%
8 東日本旅客鉄道	陸運業	2.84%
9 東芝	電気機器	2.61%
10 東京電力	電気・ガス業	2.16%
合計		32.09%
組入銘柄数		89銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+3.43%となりました。一方、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数 配当込)の騰落率は、前四半期末比▲0.27%となりました。(以下、バリュー株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)
 ベンチマークとの比較では、バリュー株Mファンドでは、セクター配分、銘柄選択共にプラスに寄与しました。セクター配分では、素材のオーバーウェイトなどがプラス寄与となりました。銘柄選択では、素材セクターなどにおける選択がプラス寄与となりました。グロース株Mファンドは、セクター配分、銘柄選択共にプラスに寄与しました。セクター配分では、エネルギーのアンダーウェイトなどがプラス寄与となりました。銘柄選択では、資本財・サービスや金融セクターにおける選択がプラス寄与となりました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。
 引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュー株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンドー2
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュー株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従い「リバランス」を行います。

※ 当投資信託は、主として、
 バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券、
 アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券 に投資します。

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年1月8日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数 配当込)⁴です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

* バリュー株Mファンド: バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券

** グロース株Mファンド: アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券

○市場別構成比率

市場	投資信託
東京証券取引所第一部	96.17%
大阪証券取引所第一部	2.57%
現金等	1.27%
合計	100.00%

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。 ・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、10ページに記載しています。

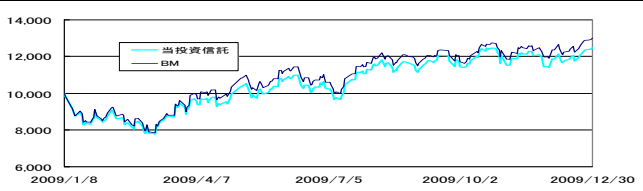
ユニット・リンク保険（有期型）

特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 外国株式プラス型 [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2009年1月8日)を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	8.73%	5.50%	18.25%	-	-	24.74%
BM	8.81%	7.72%	19.25%	-	-	30.16%
差	▲0.08%	▲2.23%	▲1.01%	-	-	▲5.42%

■当投資信託の詳細情報

○資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュー株Mファンド*	50.00%	50.00%
グロース株Mファンド**	50.00%	50.28%
短期金融資産等	0.00%	-0.28%
合計	100.00%	100.00%

○国/地域別構成比率

国名	投資信託
1 アメリカ	44.12%
2 イギリス	13.51%
3 ドイツ	6.06%
4 フランス	5.56%
5 スイス	3.31%
6 オーストラリア	2.76%
7 中国	1.97%
8 その他の国/地域	22.02%
9 株式先物	0.18%
10 現金等	0.51%
合計	100.00%

○組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	業態	投資信託
1 ゴールドマン・サックス・グループ	アメリカ	金融	証券・投資銀行	1.56%
2 メルク	アメリカ	ヘルスケア	医薬品	1.52%
3 マイクロソフト	アメリカ	情報技術	コンピューターソフト	1.40%
4 サンタンデル銀行	スペイン	金融	銀行	1.28%
5 ボーダフォン・グループ	イギリス	電気通信サービス	移動体通信	1.14%
6 BP	イギリス	エネルギー	石油	1.11%
7 ロイヤル・ダッチ・シェル	イギリス	エネルギー	石油	1.04%
8 ロウズ	アメリカ	一般消費財・サービス	建材・家庭用品	1.03%
9 BNPパリバ	フランス	金融	銀行	1.01%
10 ファイザー	アメリカ	ヘルスケア	医薬品	1.00%
合計				12.09%
組入銘柄数				240銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+5.50%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIロクサイ・インデックス(税引き後配当金込/円ベース)の騰落率は前四半期末比+7.72%となりました。(以下、バリュー株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)

ベンチマークとの比較では、バリュー株Mファンドでは、セクター配分、銘柄選択共にマイナス要因となりました。セクター配分では、素材のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、通信セクターなどにおける選択がマイナス要因となりました。グロース株Mファンドは、セクター配分、銘柄選択共にプラス寄与となりました。セクター配分では、情報技術のオーバーウェイトなどがプラス寄与となりました。銘柄選択では、一般消費財・サービス・セクターなどにおける選択がプラス寄与となりました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。

引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュー株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「1～7」の用語説明は、10ページに記載しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・海外株式スタイル・ブレンド・ファンドー1
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本を除く世界主要国の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュー株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス¹⁾を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※ 当投資信託は、主として、アライアンス・バーンスタイン・国際バリュー株・マザーファンド受益証券、アライアンス・バーンスタイン・国際リサーチ・グロース株・マザーファンド受益証券に投資します。

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年1月8日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIロクサイ・インデックス⁵⁾(税引き後配当金込/円ベース)です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○セクター別構成比率

セクター	投資信託
1 金融	20.47%
2 情報技術	14.94%
3 一般消費財・サービス	13.99%
4 エネルギー	11.50%
5 ヘルスケア	10.74%
6 資本財・サービス	7.97%
7 生活必需品	7.27%
8 その他のセクター	12.43%
9 株式先物	0.18%
10 現金等	0.51%
合計	100.00%

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

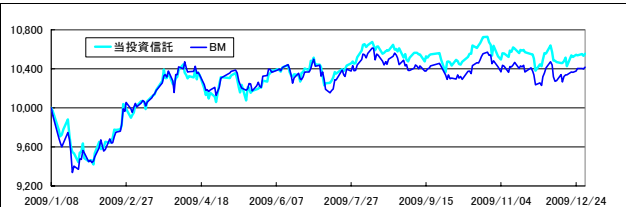
ユニット・リンク保険（有期型）

特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界債券プラス型 [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2009年1月8日)を10,000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ファンド-3
 【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。
 外貨資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※ 当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1か月	過去3か月	過去6か月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.05%	0.75%	0.71%	-	-	5.55%
BM	1.55%	0.76%	0.13%	-	-	4.15%
差	▲0.50%	▲0.00%	0.58%	-	-	1.40%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2009年1月8日)を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円ベース)¹⁶です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 ドイツ	25.39%
2 日本	21.55%
3 アメリカ	16.24%
4 イギリス	8.99%
5 フランス	5.28%
6 カナダ	4.19%
7 スウェーデン	3.13%
8 オーストラリア	1.38%
9 その他の国/地域	9.05%
10 現金等	4.80%
合計	100.00%

○ 格付別構成比率

格付	マザーファンド
AAA	57.01%
AA	25.81%
A	6.70%
BBB	5.68%
BB以下	0.00%
現金等	4.80%
合計	100.00%

格付基準:

※ ムーディーズ社またはスタンダード・アンド・プアーズ(S&P)社のうち、いずれか高いほうを採用しています。

○ 債券種別資産構成比率

債券種別	マザーファンド
1 国債・政府機関債等	76.15%
2 社債	19.05%
3 現金等	4.80%
合計	100.00%

○ 組入上位10銘柄

銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
				ムーディーズ	S&P	
1 ドイツ国債	ドイツ	3.750%	2017年1月4日	Aaa	AAA	5.33%
2 ドイツ国債	ドイツ	4.250%	2017年7月4日	Aaa	AAA	4.33%
3 日本国債	日本	1.500%	2015年9月20日	Aa2	AA	4.05%
4 ドイツ国債	ドイツ	4.000%	2016年7月4日	Aaa	AAA	3.71%
5 カナダ国債	カナダ	3.750%	2019年6月1日	Aaa	AAA	3.60%
6 日本国債	日本	1.300%	2014年3月20日	Aa2	AA	3.58%
7 イギリス国債	イギリス	5.000%	2018年3月7日	Aaa	AAA	3.50%
8 ドイツ国債	ドイツ	3.750%	2019年1月4日	Aaa	AAA	3.33%
9 イギリス国債	イギリス	8.000%	2015年12月7日	Aaa	AAA	3.17%
10 フランス国債	フランス	3.250%	2016年4月25日	Aaa	AAA	2.72%
合計						37.32%
組入銘柄数						139銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	2.86%
平均クーポン	3.78%
平均残存期間	7.51
実効デュレーション	6.08

※ 「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

※ 「実効デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.75%、一方、ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(円ベース)の騰落率は前四半期末比+0.76%となりました。

ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおいて、米国国債のイールドカーブ戦略などはマイナス要因となったものの、社債の組入れがプラスに寄与しました。マザーファンドのポートフォリオでは、米国国債や日本国債などを一部売却した一方、カナダ国債などを買い増しました。社債については、エネルギーや化学関連銘柄などの買い付けにより組入比率を引き上げました。

世界経済は、堅調なアジア経済が先進国経済にも好影響を及ぼし、2010年の景気回復は力強いものになると予想しています。主要国の国債については、欧州などの投資妙味が高いと判断している一方、日本などについて慎重な見方をしています。投資適格社債については、昨年の金融危機の際に大幅に拡大した国債との利回り格差(スプレッド)は足元では大きく縮小したものの、依然として高い水準にあることに加え、今後期待される景気回復の影響などから、相対的な投資妙味は高いと判断しています。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、10ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

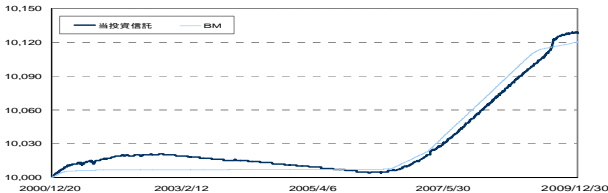
ユニット・リンク保険（有期型）

特別勘定の四半期運用レポート（2009年10月～2009年12月）

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 金融市場型 [2009年12月 末日現在]

■当投資信託の基準価額の推移



※ 投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

投資信託	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
BM	0.03%	0.06%	0.11%	0.33%	1.24%	1.39%
差	0.01%	0.03%	0.05%	0.11%	1.05%	1.25%
	0.02%	0.03%	0.06%	0.22%	0.19%	0.14%

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) (適格機関投資家私募)
 【委託会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投資信託顧問株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券(適格機関投資家私募)に投資します。

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。

※ 投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート⁷⁾により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	1.08年	45.11%
国債	1.62年	27.71%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	0.00年	0.00%
金融債	0.00年	0.00%
社債等	0.21年	17.40%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等	0.40年	54.89%
CD		0.00%
CP		0.00%
TB/FB		51.98%
コールローン		2.91%
その他		0.00%
合計	0.71年	100.00%

○公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	14.41%
AA	85.59%
A	0.00%
BBB	0.00%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

※ 海外格付機関の格付を優先します。

※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

※ FB等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。

※ 「TB/FB」には、残存期間が1年未満の国債を含みます。

※ 「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を

示す指標として用いられ金利の変化に対する

債券価格の変動率を示します。

○短期資産等の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
P-1	100.00%
P-2	0.00%
P-3	0.00%
無格付	0.00%
合計	100.00%

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.06%、一方、ベンチマークである日本円無担保コールオーバーナイト物レートは前四半期末比+0.03%となりました。当四半期の債券市場は、ボラティリティが引き続き高くなりました。12月1日には、日銀が臨時の金融政策決定会合を開催したことから追加的量的緩和策への期待が買い材料となり、金利は急低下しましたが、その後の発表を受けて、市場では規模が不十分との見方から債券が軟調に推移する展開となりました。当四半期の当投資信託は、堅調な短期国債市場や社債市場の恩恵を受けて、ベンチマークを上回る結果となりました。今後も引き続き、質が高く信用力を確保した銘柄へ投資することで安定した運用と利回りの向上をめざします。

※ 将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・ 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・ 3ページおよび5ページ～10ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、10ページに記載しています。

用語説明

*1 「リバランス」とは、当初決定した基本資産配分に向けて調整することをいいます。

*2 「NOMURA-BPI総合指数」とは、日本国内で発行される公募固定利付債の流通市場動向を的確に表すために、野村證券株式会社によって計算、公表されている投資収益指数です。

NOMURA-BPI総合指数は野村證券株式会社の知的財産です。野村證券株式会社は、当特別勘定の運用成果等に関し、一切責任は負いません。

*3 「シティグループ世界国債インデックス」とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した債券指数で、世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し、

指数化したものです。シティグループ世界国債インデックスはシティグループ・グローバル・マーケット・インクが開発した指数であり、

同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。

*4 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、

配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」)の知的財産であり、

この指数の算出、数値の公表、利用など株主権に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。

東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

*5 「MSCIコクサイ・インデックス」とは、MSCI Inc. が日本を除く世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。

MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

MSCIコクサイ・インデックス(税引後配当金込/円ベース)は、MSCIコクサイ・インデックス(税引後配当金込/米ドルベース)をもとに、

わが国に対する対客電通相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。

*6 「シティグループ世界国債インデックス(円ベース)」とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが算出・公表する指数で、

1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。

シティグループ世界国債インデックス(円ベース)に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。

*7 「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。

このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型）のリスク及び諸費用について ①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動などに伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償、補填をすることはありません。

【諸費用について】

<保険料払込時および保険期間中にかかる費用>

（以下の各費用の合計額をご負担いただきます。）

●保険関係費

<主契約部分>

保険契約の締結、維持などに必要な費用を主契約の保険料から控除します。主契約の保険料からこの費用を控除した金額を特別勘定に繰り入れます。また、特別勘定に繰り入れた後に、死亡保障などに必要な費用を積立金額から定期的に控除します。なお、上記の費用は、被保険者の年齢などにより異なるため、具体的な金額や上限額を表示することができません。

<特約部分>

特約を付加された場合は、主契約の保険料とは別に特約部分の保険料をご負担いただきます。特約部分の保険料は特別勘定では運用いたしません。また、契約条件に関する特約(08)を付加し、特別保険料の付加の条件が適用された場合は、特別保険料をご負担いただきます。特別保険料は特別勘定では運用いたしません。特約部分の保険料および特別保険料は生命保険証券でご確認ください。

●運用関係費

項目	費用	ご負担いただく時期
運用関係費	安定成長バランス型 : 投資信託の純資産額に対して 年率 0.61635%程度 (税抜:0.587%程度)*1	特別勘定にて 利用する投資信託において、 毎日、 投資信託の純資産額から 控除します。
	積極運用バランス型 : 投資信託の純資産額に対して 年率 0.74340%程度 (税抜:0.708%程度)*1	
	日本株式プラス型 : 投資信託の純資産額に対して 年率 0.99750%程度 (税抜:0.950%程度)	
	外国株式プラス型 : 投資信託の純資産額に対して 年率 0.99750%程度 (税抜:0.950%程度)	
	世界債券プラス型 : 投資信託の純資産額に対して 年率 0.68250%程度 (税抜:0.650%程度)	
	金融市場型 : 年率 0.034125%~0.483000%程度 (税抜:0.0325%~0.4600%程度)*2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。これらの運用関係費は、特別勘定の廃止もしくは統合・運用協力会社の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 「安定成長バランス型」および「積極運用バランス型」の運用関係費は、主な投資対象である投資信託の信託報酬率を基本資産配分比率で加重平均した概算値です。各投資信託の信託報酬率はそれぞれ異なりますので、各投資信託の価格の変動等に伴う実際の配分比率の変動により、運用関係費も若干変動します。

*2 「金融市場型」の運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

<解約時にかかる費用>

●解約控除

項目	費用	ご負担いただく時期
解約控除	解約日における保険料払込年月数が10年未満の場合に、基本保険金額に対し保険料払込年月数により計算した額	解約日の積立金額から控除します。

※ 解約控除額は保険料払込年月数などによって異なり、具体的な金額を表示することができません。
※ 基本保険金額を減額されたときは、減額分は解約されたものとしてお取扱いします。
※ 保険料払込年月数が10年未満の場合に定額払済養老保険への変更などをされる場合にも解約控除がかかります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

ユニット・リンク保険（有期型）のリスク及び諸費用について ②

<積立金の移転に関わる費用>

項目	時期	費用	備考
積立金 移転費用	積立金の 移転時	【書面による移転申込みの場合】 月1回1,500円、 2回目からは1回につき2,300円	毎回の移転について積立金から控除します。
		【インターネットによる移転申込みの場合】 月1回の移転は無料、 2回目からは1回につき800円	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。

※ 積立金移転時は、その際必要となる移転費用の2倍相当額以上の積立金残高が必要です。

※ 積立金移転費用は将来変更される可能性があります。

<年金払特約、年金払移行特約による年金支払期間中にかかる費用>

項目	項目	費用	ご負担いただく時期
年金 管理費	年金のお支払いや 管理などに必要な 費用	年金額に対して1.0%	年単位の契約応当日に責任準備金から控除します。

※ 年金管理費は、将来変更される可能性があります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>